

グループワーク結果

本日の発表内容を受けてのご感想と、各団体・各機関における現在の取り組みのご紹介、併せて今後取り組んでいきたい活動等についてご意見を願います。

1G

- ・地域でどのような活動が行われているのかを知る良い機会になった。
- ・「よろず相談・光の川」の活動はとても素晴らしく、北九州市全域に広がっていくとよいと感じた。
- ・自身の親が独居で、ゴミ出しに本当に困っていたが、活動を実際に利用しており、ゴミ出しや買い物、安否確認にもなっている。孤独死の予防にもつながるのではないかなと思う。
- ・課題は、若い世代にどう参加してもらい、次の世代へどう引き継いでいくか。「今すぐ」の依頼が多いが、「今」動ける人が少ない。若い人の登録はあるものの、仕事があり対応が難しく、マッチングが大変。
- ・社協からの依頼は全体的にあったが、牧山東は地域活動が積極的で、動くきっかけになった。北九州に「光の川」のような取り組みができる体制があり、民生委員でなければできないものではない。
- ・西戸畑では5年計画を立てており、地区ごとに何をするか検討中。大枠の目標はあるが、2～3年先を見据えて、より具体的に考えていく必要がある。
- ・ボランティアは無償というイメージが強いが、自分の時間を使うことを考えると、「10分100円」など少額でも対価がある方が、双方にとって気持ちが良いのではないかな。
- ・依頼内容は、食器棚の蝶番の修理や不要になったエアコンの引き取りなど、生活に密着したものが多い。
- ・病院全体として、道路サポーターや草むしり、食料支援、まちかど健康チェックなどに取り組んでいる。病院だけでなく、町内会と一緒に進めていきたい。

2G

- ・駅周辺では若い世代が少しずつ増えてきているが、地域行事への参加は少ない。行事に参加してもらえる工夫が必要で、若い人を取り入れること、新しい企画を考えていくことが大切だと感じた。
- ・病院内でも、バスハイクなどの活動を計画し、実施している。
- ・さまざまな活動内容を聞くことができ、とても参考になった。
- ・地域との関わりが非常に大切だと改めて実感した。
- ・また、送迎バスについても今後検討してほしいとの意見があった。
- ・本日の講演を通じて、自治体に支えられていることを実感した。
- ・気になる方への自宅訪問などを、今後はより積極的に行っていきたい。
- ・病院職員として地域行事にも参加し、地域との関わりを持ちながら、患者さんを支えていきたいという意見が出された。

3G

- ・牧山地区の地域活動がとても良いと感じた。町かど相談室などもあり、地域の活動がさらに活発になるとよいと思う。
- ・訪問診療を行っているが、患者さんがどのような生活を送っているのか見えにくい部分がある。情報共有ができると、より支援につなげやすいのではないか。
- ・牧山での取り組みを知らなかったが、こうした活動が広がれば、多職種連携にもつながっていくと感じた。
- ・浅生地区では、人とのつながりが薄れてきている一方で、利便性が高く、生活上の困りごとが表面化しにくい。声をかける機会が少なく、独居や世代交代といった課題も感じている。
- ・家族が遠方にいる方や、地域に戻ってきた方を、地域で活動している人につなげられればよい。
- ・病院としても、介護保険は使えないがゴミ出しができないといった相談が多い。
- ・認知症の方が地域の輪に入りにくい現状も課題として挙げられた。
- ・孤立している人を何とかしたいという思いはあるが、施設や行政に問い合わせても、守秘義務の関係で情報が得られず、支援につなげにくい現状がある。

4G

- ・認知症カフェは少しずつ形になり、小規模デイのような役割も果たしている。今後は、病気の予防や早期発見につなげていきたい。家族からの相談は多くない一方で、スタッフ不足が課題となっており、70歳代のスタッフも増えてきている。
- ・人口減少社会の中で、今日の発表を通じて地域の取り組みの重要性を改めて感じた。この地域が活性化してほしいという思いがある。歯科医師会に相談したい。
- ・地域の活動をどのように知ればよいのか、広報の難しさを感じている。
- ・他地域から戸畑区へ仕事に来ていると、地域の情報が意外と入ってこない。
- ・戸畑区内に事務所はあるが、実際の活動は区外が多い。もっと地域を知り、地域に貢献していきたい。戸畑区の患者は少ないかもしれない。
- ・サロンをきっかけに人が集まることが重要だと感じている。特に、男性が集まる機会が少ないため、そば打ちなどの企画を行っている。

5G

- ・牧山地区では、高齢者へのマスク配布を行っており、訪問時にも配布している。
- ・沢見市民センターでは「いちご講座」を実施し、PTや歯科衛生士など専門職が関わりながら、地域を盛り上げる取り組みを行っている。
また、道路サポーターに加入し、仕事の合間の30分を使ってごみ拾いを行うなどの活動が、サインボード作成にもつながった。登下校中の子どもたちから感謝の声があり、活動のモチベーション向上につながっている。
- ・特別養護老人ホーム大谷園では、OT・PTが市民センターや施設内交流ルームで体操教室を実施している。そこから家族の介護相談など、自然と困りごとが出てくる場にもなっている。昨年は寺カフェを開催し、コーヒーや焼き芋、鍼灸なども行った。
- ・町かど健康チェックでは、地域に出向き、一般の方を対象に健康チェックを実施している。菖蒲祭りにも参加している。
- ・認知症カフェなどの地域活動について、身近な北九州でも行われていることを今回初めて知り、良い機会になったとの声があった。
若い世代がさまざまな人とつながり、広がっていくことを期待している。
- ・患者の診療を行い、必要なサービス提供はできているが、病院・診療所と地域、地域の専門職との間には、まだ距離があると感じている。両者もっと歩み寄り、計画していけたらいいと思う。

6G

- ・サロンには、戸畑リハビリテーション病院や大谷園からリハビリスタッフが参加している。
今後は、さまざまな出前講演ができればよいという声があった。
- ・福祉協力員も高齢化している。大谷地区は2つの地域に分かれており、一方ではサロン活動が活発だが、もう一方は場所の制約もあり、サロンが十分に行えていない。
その中で、移動販売を実施できたことは成果と感じている。
- ・利用者のちょっとした困りごとへの対応や、地域での見守りの目が増えることで、より安心して長く暮らせる地域になるのではないかという意見があった。
- ・地域には、想像以上に多くの人や事業、活動があることを知ることで良かった。
- ・「こんなことを相談してもよいのだろうか」と思っている人が多いが、
もっと気軽に相談し合うことで、人と人がつながっていけると感じた。

7G

- ・地域の活動につながる機会がなかなかないという印象がある。講演会の講師などで関わることはあっても、日常的な地域活動への参加は少ない。
- ・地域差があり、活動は活発でもメンバーが固定化していて入りにくいところもある。
- ・今回の研修で市民センターの活動が見えたことをきっかけに、地元の職場や地域について調べてみたい。自分の住んでいる地域の活動は意外と知らないことが多い。
- ・医療者として訪問診療や訪問看護は行っているが、地域の活動を知る機会はほとんどなかったため、今回の研修は良い機会になった。
- ・地域にある病院や施設、地元の人々が日常的につながる場は少ないが、地域のお祭りが人と人をつなぐきっかけになっている。
- ・地区社協とどのような場面でつながるのか分かりにくいという声があった。
一方で、市民センターの施設利用の規定が変わり、より広く利用できるようになっている。
- ・市民センターだよりやホームページなどに情報があり、「知ろう」「行こう」と意識すれば地域とつながれる。福祉協力員が地域の情報を持っているという意見も出された。

8G

- ・依頼があれば歯科訪問は行っており、何かあれば歯科医師会へ電話しているが、社協とのつながりがなく課題と感じている。
- ・サロン活動については依頼はあるものの、継続していくための人材育成が必要。
- ・戸畑は比較的恵まれており、市民センターという頼れる場所があるという意見があった。
- ・戸畑けんわ病院では、NS・PTが退院後のつなぎとしてリハビリなどの活動を行っている。
- ・高齢の独居世帯が多く、困りごとを誰に頼めばよいのか分からないケースが多い中で、今回こうした地域活動を知ることができ、今後広めていきたいと感じた。
- ・ケアマネジャーとして、退院後の支援を依頼されることが多いが、
「誰につながればよいのか」で戸惑うことがある。
- ・独居の方の食事や経済的な困りごとなど、現場の課題を知ることができ、勉強になった。
- ・在宅看護や実習の場を通じて、学生にも地域での取り組みや視点を伝えていきたいという声があった。
- ・困っている人は地域の中でしか見つけられないという認識が共有された。
他地域では、こうした取り組みがこの4年間なかなか始まっていないという現状も挙げられた。

9G

- ・とても良い内容・活動であり、今後さらに広まってほしいと感じた。
- ・居宅療養管理指導を歯科衛生士も実施・訪問できることを、地域に周知していきたいとの意見があった。
- ・良い活動は、まず「知ること」から始まり、そこから人や支援につなげていけると感じた。
- ・老人保健施設には対応が難しい認知症の方もおり、認知症カフェを見学・活用していきたい。腰痛予防の体操を行っており、対処方法や救急時の対応を伝える活動も行っている。入所から在宅復帰につなげるリハビリの重要性も共有された。
- ・地域包括支援センターは「醸成の時代」に入っており、若い世代への関わりづくりが課題。在宅医療では個人宅に出られない患者もいるため、多職種での情報共有ができればよい。「おくすりフェア」を実施しており、今後も毎年継続したい。
- ・若い人を育てていくことが課題であり、「来ない若い人」を責めるのではなく、「どうしたら来られるか」という発想が必要。お祭りなどの地域活動はよく行われているとの意見があった。
- ・地域のインフラとして、病院が果たす役割は大きく、地域との情報支援が必要。広報担当と連携し、情報を整理・発信する仕組みを2年程度で整えていく計画。
- ・SNSの活用や、隙間時間でできるボランティア、勤務時間内でも関われる仕組みづくりが求められている。

10G

- ・参加したい気持ちはあるが、参加の糸口が分からないという声があった。よろず相談光の川なども、単発で参加するのではなく、継続して関わっていくことが大切だと感じた。
- ・87歳で独居の母が引きこもりがちで、何とか外に連れ出したいという思いがある。母をきっかけに、地域活動へ参加してみたいという意見があった。
- ・地域のことは、内容がはっきりしなくても、まずは窓口として社会福祉協議会に相談してみるとよいのではないか、という提案があった。
- ・新川子ども会では、活動後も横のつながりが続いているとの紹介があった。
- ・地域とさまざまな人をつなげていきたいという思いが共有された。
- ・困っている人も、何か関わりたいと思っている人も、「知らない」だけの場合が多い。取り組みを通して、知り、つながっていくことが大切だと感じた。
- ・障害者施設での取り組みとして、廃品回収や祭り(オレンジカフェの取り組み)、聴覚障害のある方が活動できる場の提供などが紹介された。
- ・各地区の取り組みの話に感激したという声があり、負担もある中で、なぜこれほど前向きに取り組めるのか考えさせられた。

発表:1グループ

発表を通して、地域で行われているさまざまな活動を知ることができ、良かったという意見が多く聞かれた。

「よろず相談・光の川」のような支援が、今後さらに地域に広がっていけばよいと感じた。体制づくりは進められているものの、実際に機能している地域はまだ少ないように思われ、その点が課題であると感じた。

また、ボランティアの活動時間を「10分100円」と明示している点は、分かりやすく、参加のハードルを下げる工夫として良い設定だと思われ、今後の参考にしたいという意見があった。

発表:5グループ

牧山地区では、高齢者の安否確認を兼ねてマスク配布を行っている。

さわみ市民センターでは、PTや歯科衛生士を中心に地域を盛り上げる取り組みを実施している。

道路サポーターとしてごみ回収を行う中で、登下校中の小・中学生から感謝の声をかけられ、活動者のモチベーション向上につながっている。

また、認知症カフェの存在を初めて知った参加者もあり、今後さらに周知していく必要性を感じた。

介護美容といった新たな取り組みも含め、ホームページの活用や病院等との連携を進めていきたい、との意見があった。